

今後の訪問診療体制は

必要な人が訪問診療を受けられるよう努める

問 山田病院が行う訪問診療について、削減の方向で動いているようだ。そもそも訪問診療は、仮設の山田病院に入院施設が無いことに対する暫定的な対応という面もあり、また医療機関への負担も大きいため、山田病院が完成した現状で見直しは必要であると認識している。一方、見直し済みの28件のうち17件が打ち切りと、かなり高い割合となつている。この中にはさまざまな事情で訪問診療が必要なケースがあると思うが、そういった件について把握しているか。

菊池長寿福祉課長 介護度が高く寝たきりに近い方等で外来通院になったケースがあるということ。その場合は病院へ再検討を相談している。

問 現在、当町は震災からの復興が道半ばである。家庭状況が平時と違う場合は通院が大変。また通院経路となる細浦柳沢線と境田南線もまだ開通しておらず、居住地域によっては交通が不便。そのような現状で平時同様の基準で審査するのは時期尚早ではないかと思う。どうしても訪問診療が必要なケースでは再開できるように、また残りの審査でも配慮いただけよう、改めて町から働き掛けていくべき。

長寿福祉課長 関係者と情報の共有をしっかりと行い、必要なケースでは継続できるように対応していく。

山田の食を積極的にアピールし観光客誘致を

食の部分について飲食店と連携しPRを検討

問 町内を訪れた人から「地元の食材をどこで食べられるのか分からない」といった話を良く耳にする。食は強い誘客力があるが、現状はアピール不足。力を入れるべきでは。

武藤水産商工課長 飲食店と連携し、昼食を始めとした食の部分について周知を検討していく。

問 民間との連携は重要なので推進してほしい。また力キ小屋や観光物産館「とっと」について、今後は立地場所等を含めてどのように運営していくのか。

水産商工課長 地元食材の扱いおよび立地場所について検討が必要。駅付近に地元の食材

を味わえる拠点があると強い。三陸縦貫道開通後を考えると山田ICを下りてすぐの場所も利便性を

の面で候補に挙がるが、鉄道利用客にとつては移動が困難。逆にIC利用客は駅まで車で移動できる。山田駅付近海側の土地は利用計画も決まっていないので、食の拠点として有効活用すべき。

水産商工課長 立地場所について今後検討していく。



田老賢也 議員
(無所属)



食の拠点として海側の土地活用が望まれる